

過去の災害を踏まえた 避難のあり方について

－目次－

- I 令和6年能登半島地震における福知山市の支援活動の概要
- II 幾多の困難（過去の水害）から
- III 災害を防ぐために（ハード・ソフト対策）
- IV 新たな試練（令和5年台風第7号による災害）

福知山市 危機管理監 松本美規夫

「令和6年1月1日(月)石川県能登地方を震源とする地震が発生」

- 16時10分頃 最大震度7 マグニチュード7.6
- 16時22分発表 大津波警報 石川県能登
津波警報 山形県、新潟県上中下越、佐渡、富山県、石川県加賀・福井県・兵庫県北部

①緊急消防援助隊の活動状況

- 京都府大隊として石川県珠洲市にて活動継続中(1/1～現在活動中 2隊6名体制で現在第7陣)

②災害派遣医療チーム(DMAT)の支援活動状況

- 石川県立中央病院にて支援活動(1/4～1/7 医師1名、看護師3名)

③し尿運搬の支援活動状況

- 石川県珠洲市及び七尾市にて支援活動(1/10～1/15 民間業者)

④避難所運営の支援活動状況

- 石川県七尾市にて支援活動継続中(1/13～現在活動中 職員1名体制で現在第2陣)

⑤建築物応急危険度判定の支援活動状況

- 石川県珠洲市にて支援活動(1/16～1/20 職員2名体制)

⑥給水支援活動状況

- 石川県能登町にて支援活動継続中(1/18～現在活動中 職員4名体制)

今後も要請に基づき、支援を実施します。

緊急消防援助隊



災害派遣医療チーム (DMAT)



し尿運搬支援



避難所開設支援



建築物応急危険度判定支援



給水支援



日本赤十字社「令和6年能登半島地震災害義援金」

- 受付期間：令和6年12月27日（金）まで
- 受付方法：現金受付あるいは直接口座振り込み
現金での受付の場合は、福知山市役所1階社会福祉課
あるいは三和支所、夜久野支所、大江支所
- その他：救援物資については、取り扱っておりません

II 幾多の困難（過去の水害）から

発生年月日	原因	福知山最高水位(m)	主な被害状況
昭和28年9月25日	台風13号	7.80	災害救助法適用 死者12名、負傷者820名、家屋流出84戸、全壊986戸、半壊1,384戸、床上浸水4,075戸、床下浸水284戸
昭和34年9月26日	台風15号 (伊勢湾台風)	7.10	災害救助法適用 死者1名、負傷者28名、家屋流出7戸、全壊10戸、半壊144戸、床上浸水3,958戸、床下浸水1,780戸
昭和36年10月28日	台風26号	5.33	災害救助法適用 全・半壊8戸、床上浸水767戸、床下浸水1,708戸
昭和40年9月18日	台風24号	5.22	全壊3戸、半壊1戸、床上浸水411戸、床下浸水1,534戸
昭和47年9月17日	台風20号	6.15	災害救助法適用 負傷者5名、全壊4戸、半壊33戸、床上浸水527戸、床下浸水1,024戸
昭和57年8月2日	台風10号	5.45	床上浸水29戸、床下浸水21戸
昭和58年9月28日	台風10号	5.57	死者1名、全壊5戸、半壊3戸、一部損壊8戸、床上浸水14戸、床下浸水178戸
平成16年10月20日	台風23号	7.55	災害救助法適用 死者2名、負傷者2名、半壊59戸、一部損壊115戸、床上浸水755戸、床下浸水731戸
平成23年9月20日	台風15号	5.73	床上浸水4戸、床下浸水11戸
平成25年9月16日	台風18号	8.30	災害救助法適用 全壊2戸、大規模半壊19戸、半壊311戸、一部損壊・床上浸水423戸、床下浸水356戸
平成26年8月15日	秋雨前線	6.48	災害救助法適用 全壊13戸、大規模半壊6戸、半壊266戸、一部損壊3,968戸、床上浸水2,029戸、床下浸水2,471戸
平成29年10月23日	台風21号	7.39	半壊12戸、一部損壊11戸、床上浸水98戸、床下浸水227戸
平成30年7月7日	梅雨前線	6.52	災害救助法適用 全壊14戸、半壊40戸、床上浸水414戸、床下浸水747戸

福知山市の災害リスク

H25.9 台風第18号による外水氾濫



福知山市の災害リスク

平常時



福知山地点の様子（最高水位8.30m）

※HWL: 7.74m

福知山市の災害リスク



H26.8 秋雨前線による内水氾濫

福知山市の災害リスク

平成29.10 台風第21号による内水氾濫



福知山市の災害リスク

平成30.7 梅雨前線による内水氾濫（福知山市大江町蓼原地区）



福知山市の災害リスク

平成30.7 梅雨前線による内水氾濫（福知山市大江町蓼原地区）

過去の浸水の痕跡



〔平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ報告書から抜粋〕

今後の水害・土砂災害からの避難対策への提言～避難に対する基本姿勢～

現状

- ✓ 行政は防災対策の充実に不断の努力を続けていくが、地球温暖化に伴う気象状況の激化や行政職員に限られていること等により、突発的に発生する激甚な災害への行政主導のハード対策・ソフト対策に限界
- ✓ 防災対策を今後も維持・向上するため、国民全体で共通理解のもと、住民主体の防災対策に転換していく必要

目指す社会

住民 「自らの命は自らが守る」意識を持つ

- ✓ 平時より災害リスクや避難行動等について把握する。
- ✓ 地域の防災リーダーのもと、避難計画の作成や避難訓練等を行い地域の防災力を高める。
- ✓ 災害時には自らの判断で適切に避難行動をとる。

行政 住民が適切な避難行動をとれるよう全力で支援する

- ✓ 平時より、災害リスクのある全ての地域で、あらゆる世代の住民を対象に、継続的に防災教育、避難訓練などを実施し、「自らの命は自らが守る」意識の徹底や地域の災害リスクととるべき避難行動等の周知をする。
- ✓ 災害時には、避難行動が容易にとれるよう、防災情報をわかりやすく提供する。

実現のための戦略

①災害リスクのある全ての地域であらゆる世代の住民に普及啓発

子供

災害のリスクのある全ての小・中学校等における避難訓練・防災教育

地域

全国で地域防災リーダーを育成し、防災力を強化

高齢者

全国で防災と福祉が連携し、高齢者の避難行動に対する理解を促進

②全国で専門家による支援体制を整備

専門家(水害、土砂災害、防災気象情報)

①の取組を支援するため、全国で地域に精通した防災の専門家による支援体制を整備

③住民の行動を支援する防災情報を提供

リスク情報

地域の災害リスクを容易に入手できるように、各種災害のリスク情報を集約して一元化し、重ね合わせて表示

防災情報

防災情報を5段階の警戒レベルにより提供することなどを通して、受け手側が情報の意味を直感的に理解できるような取組を推進

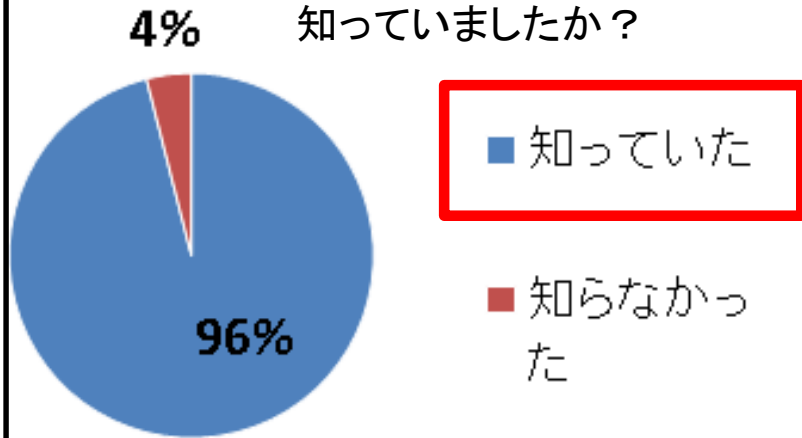
〔平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ報告書から抜粋〕

＜国民の皆さんへ ～大事な命が失われる前に＞

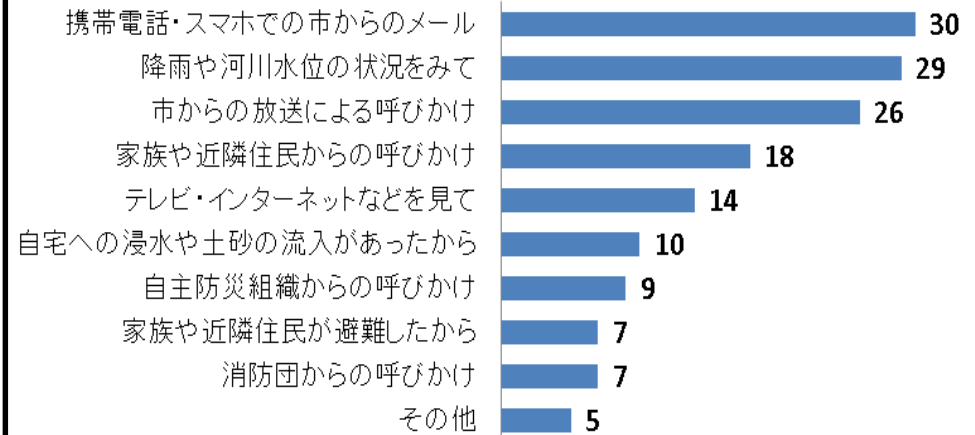
- ①避難とはしていただくものではない。
- ②自然災害は決して他人事ではありません。「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。
- ③激化した自然現象は今後更に悪化するでしょう。
- ④行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。自然の脅威が迫っているとき、行政が一人一人を助けに行くことはできません。
- ⑤行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。
- ⑥避難するかは「あなた」が判断してください。
- ⑦まだ、大丈夫だろうと思って亡くなった方がいたかもしれません。河川の氾濫や土砂災害が発生してからではもう手遅れです。今、逃げなければ、自分や大事な人の命が失われるとの意識を忘れないでください。
- ⑧命を失わないために、災害に関心をもってください。
あなたの家は洪水や土砂災害等の危険性は全くないですか。危険が迫った時、どんな情報で、どこへ、どうやって逃げますか？
- ⑨あなた一人ではありません。避難の呼びかけ、一人では避難が難しい方の援助、地域の皆さんで助け合いましょう。行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。

平成30年7月豪雨の土砂災害振り返りアンケートの結果（抜粋）

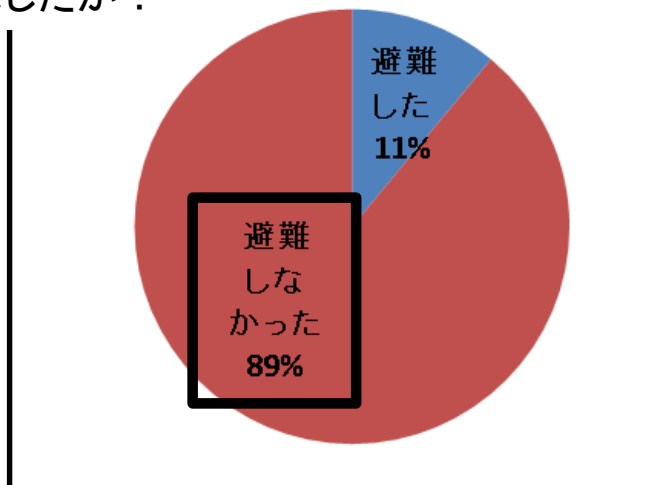
（問）7月豪雨の際、避難勧告や避難指示が出ていたことを知っていましたか？



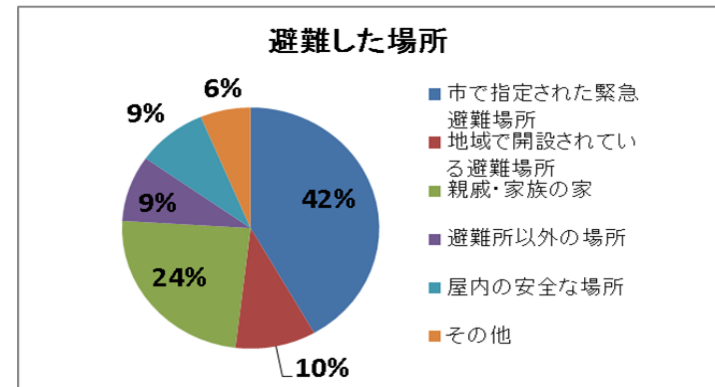
（問）避難したきっかけは？



（問）7月豪雨災害時に避難をされましたか？



問3-3【問3-1で「避難した」と回答されたかたにお聞きします。】どこに避難されましたか？



福知山市の災害リスク

災害	教訓		備え
過去の幾多の水害	ハード対策	浸水等の軽減の取り組み	①由良川緊急治水対策 ②福知山市域における総合的な治水対策 など
	ソフト対策	①避難情報の伝達と共有 ②避難場所や避難経路の確立と速やかな避難 ③自助・共助の強化による避難の推進 ④避難困難者の的確な避難など	福知山市避難のあり方検討会の方向性に基づく取り組み

福知山市避難のあり方検討会の方向性に基づく取組み

（検討会の設置目的）

平成30年7月豪雨等、近年、気象状況が激変する中で、**激甚化・頻発化する豪雨災害**に対応するとともに、社会環境の変化に伴う、スマートフォンなど**情報伝達ツールが多様化**していく中で、改めて、**市民の避難に対する意識のあり方**や、**避難行動に繋げるための情報発信のあり方**、**避難所運営等も含めた避難のあり方**全般について**対応策の検討**を行った。

（検討する6つのテーマ）

- 1 **避難のスイッチとなる情報をどのような形で発信するのか**
- 2 **高齢者や要配慮者に情報をどのように伝えるのか**
- 3 **高齢者等の要配慮者など、住民をどのように誘導するのか**
- 4 **避難先はどのようにするのか**
- 5 **避難所の受入れ体制・運営の内容はどのようにするのか**
- 6 **地域の災害リスクを理解し避難行動につなげるための防災教育の推進**

（避難のあり方検討会の委員）

（メンバー構成）

- ・京都大学 矢守教授、香川大学 竹之内講師
- ・自治会、自主防災組織、民生児童委員 代表
- ・社会福祉協議会、民間社会福祉施設連絡協議会 代表
- ・国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所長
- ・京都府危機管理部、中丹広域振興局、中丹西土木事務所代表
- ・福知山市副市長

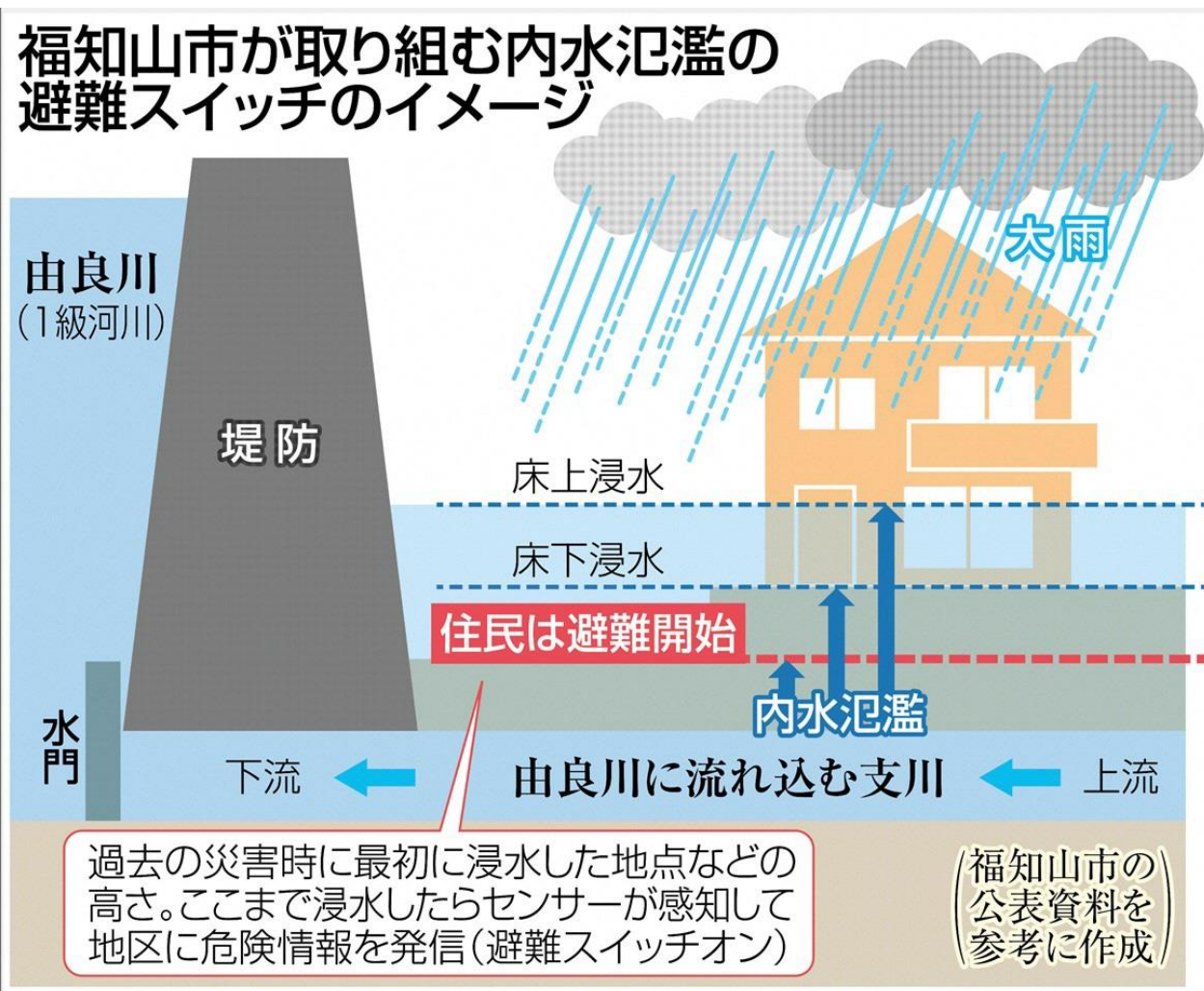
（今後の取組）

- 各テーマごとに、具現化を図るための取組みを進める。
- 避難のあり方検討の方向性を市民に周知するため、毎年「**避難のあり方検討会シンポジウム**」を開催。
- 避難のあり方検討に基づく、具体的な事業の推進を図るため、毎年「**避難のあり方推進懇話会**」を開催し、**あり方検討会の委員に取組状況を報告する。**

避難のスイッチとなる情報伝達（浸水センサー）

内水のローカルエリアリスク情報は、市の公式LINE及び**アプリ「福知山市防災」**で発信

福知山市が取り組む内水氾濫の避難スイッチのイメージ



観音寺に設置の浸水センサー



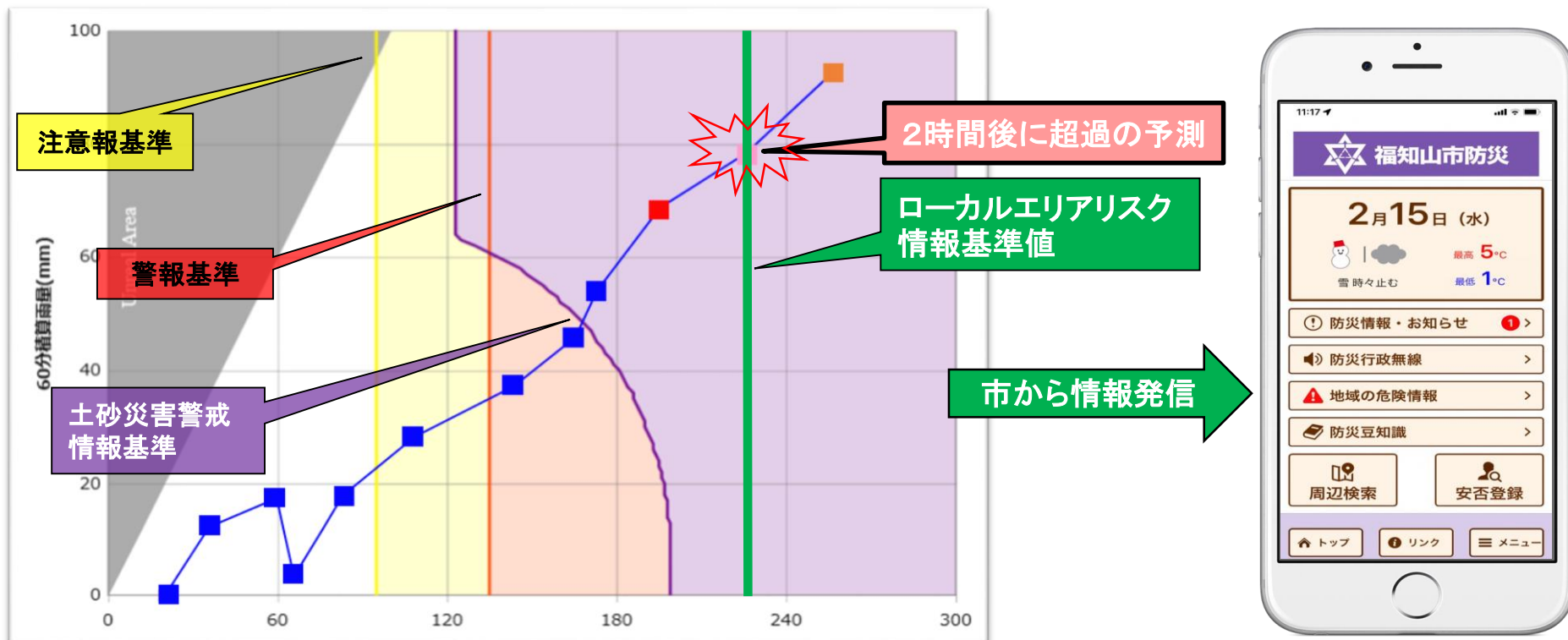
センサーが浸水を検知すれば、LINE及び福知山市防災アプリにて市から地域へ情報発信

浸水センサー設置自治会拡大中

	設置自治会	設置台数
R2	5	10
R3	7	14
R4	8	15
合計	20	39

避難のスイッチとなる情報伝達（土壌雨量指数）

土砂のローカルエリアリスク情報は、アプリ「福知山市防災」で発信



土砂災害を対象としたローカルエリアリスク情報の基準値は、土壌雨量指数の過去の最大値（既往最大値）または、過去の災害発生時の値を採用。2時間後に採用した基準値を超過すると予測された場合は、ローカルエリアリスク情報を発信。



災害時要配慮者の避難誘導及び支援

避難行動要支援者名簿の登録者3,213人(R5.1月現在)

水害リスクなし1,376人
※自宅での避難

水害リスクあり1,837人
※地域へ名簿提供あり…1,163人(63%)
※地域へ名簿提供なし…674人(37%)

優先度「高」
令和7年度までに完了

市の関与：電話・窓口相談

公助の取組を通じた勧奨、後方支援

自助による避難の推進

- 心身の障害程度が軽度の方
- 自身や家族の支援で避難ができる方

共助による避難の推進

- 心身の障害程度が軽度・中度の方
- 自身や家族の支援では避難ができず、地域の支援があれば避難ができる方
- 地域への名簿提供がある方

公助(助言)による計画作成

- 心身の障害程度が重度の方、社会的に孤立されている方
- 自身や家族、地域の支援では避難ができない方
- 地域への名簿提供がない方

380人

公助による計画作成を優先した上で、自助・共助による計画作成にも段階的に取り組む。

作成の結果、公助による避難支援が不要となった場合は、助言扱いとし、自助・共助に移行することとする。

80人

300人

自助、共助による避難支援

公助による避難支援

記録的な短時間豪雨の影響で河川が土砂や流木で閉塞し、オーバーフローしたことにより道路が冠水し、家屋等を襲った土砂・洪水氾濫被害の様子



大江町南三地内

記録的な短時間豪雨の影響で土石流発生！
家屋等を襲った！！





気象及び主な避難情報

- ・8月14日
 - 23:13分 大雨(土砂災害・浸水害)警報
 - 23:20分 土砂災害警戒情報(旧大江地域)発表
 - 23:40分 避難指示(旧大江地域)発令
- ・8月15日
 - 0時30分 土砂災害警戒情報(旧福知山地域)発表
 - 0時40分 避難指示(旧福知山地域)発令
 - 0時40分 記録的短時間大雨情報(約90ミリ)
 - 0時47分 記録的短時間大雨情報(約110ミリ)

降雨及び被災の状況

- (1)24時間最大雨量
 - 大雲橋観測所(京都府) 376ミリ
- (2)最高水位:福知山水位(国土交通省) 1.08m
- (3)住家被害:全壊10棟 半壊2棟 準半壊6棟
 - 床上浸水22棟 床下浸水77棟